

## 平成17年度の英語科の取り組みについて

### 英語科研究主題

# 豊かな表現力の育成をめざして ～表現力を高める評価活動の工夫～

## I 主題設定について

英語科における到達目標は「英語によるコミュニケーション能力の獲得」である。この目標は昔も今も変わらぬ普遍的な課題であると言えよう。ただ、それを実現するためのアプローチが時代や社会の状況に応じて様々な変遷をとげてきた。文法訳読式全盛の時代を経て、現在は語彙や文法に関する知識・技能が重要であるのは言うまでもなく、それに加え、実際に英語によるコミュニケーションに取り組みせることにより、コミュニケーションに対する関心や意欲を高め、実際にコミュニケーションを行おうとする態度を育成することが求められている。英語の学習は、よくスポーツの訓練に例えられるが、いくら泳法に関する詳しい知識を持ちあわせていても、実際に水に入って泳ぐ練習をしなければ本当に泳げるようにはならないのである。

コミュニケーション能力の中でも、日本人の英語学習にとって特に重要であると思われるのが「自己表現力」に関わる部分である。日本人は従来より、外国語のみならず母語においても自分のことを表現することが苦手であることが内外から指摘されており、その克服が緊急の課題であると考えからである。生徒の「表現したい」、「伝えたい」という気持ちは題材や活動の内容、あるいは形態と大きくかかわっており、より实际的で身近な話題を基本にした多様な自己表現活動の開発と実践に取り組む必要がある。そこで、英語科では昨年度に引き続き「豊かな表現力の育成をめざして」を中心テーマとして設定することにした。

また本年度は、さらにその自己表現活動をより豊かで効果的なものにするための評価活動の研究にも取り組んだ。適切な評価規準や評価基準の設定、形成的評価と総括的評価のあり方の研究、相互評価や自己評価カードの工夫、改善、より効果的で簡便な評価方法の工夫、開発等が具体的な研究テーマである。

## II 英語科における基礎・基本について

英語科では、3年前に本校の研究主題が決定されてから、学習指導要領の「内容」に示された事柄を身につけさせるべき基礎・基本ととらえ、

- ①英語で初歩的なコミュニケーションができるための知識や技能
- ②人や題材に主体的にかかわって表現しようとする意欲や態度

という2つの視点から、その基礎・基本を身につけさせるべき指導と評価のあり方についての研究を進めてきた。より豊かな自己表現を可能にするために、言語材料の中の語彙に関しては教科書で扱われている以外の単語も、学習者の負担にならないことに配慮しながら積極的に学習活動に取り入れている。

### Ⅲ 英語科におけるコミュニケーション能力とは何か

英語によるコミュニケーション能力とは何であろうか。実生活でコミュニケーションが成立する要因を考察してみると、(1) コミュニケーションしようとする者に、語彙や文法等の知識、能力があること、(2) メッセージを発する側と受け取る側の双方が存在すること、(3) メッセージを発する側が、そのメッセージを発信したい、あるいは発信しなければならないという欲求や必要性を感じていること、また、メッセージを受け取る側も、そのメッセージを受け取りたいとか、受け取らなければならないという欲求や必要性を感じていること、の3つの要因が考えられる。

(1) は、上記の基礎・基本の①に関わる事柄であり、(2)、(3) は、②に関わっている。まずはコミュニケーションの土台となる語彙や文法能力の獲得、そして、その土台の上に立った英語による表現と理解の能力の獲得、そして、実際に英語でコミュニケーションを行おうとする意欲や態度の育成が、英語科で取り組まねばならない課題である。実際の授業においては、ペアや小グループによる学習活動を積極的に取り入れ、できるだけ多くのコミュニケーションの機会が与えられるようにしている。

### Ⅳ 評価について

様々な社会問題や環境問題等に積極的に関わり、よりよい社会を築いていくためには、生涯にわたって学習を続けていこうとする意欲や態度の育成が不可欠であるが、その学習を続けていくためには、自分自身で学習を振り返り、自分で自分を叱ったり褒めたりすることができる力、すなわち自己評価力の育成こそが究極の学習目標であり、それこそが「学びを拓く」ことであると考えられる。

自己評価活動だけに組み込んでも、自己評価能力が育成されるとは考えにくい。未成熟な子どもたちにとっては、いくら適切な規準を示されても、自分の学習がその規準に照らし合わせてどうなのかという判断を下すことは非常に難しく、過大評価になったり過小評価になったりしてしまうことが考えられるからである。適切に自分の学習をモニターし、修正していく力をつけるためには、「自分自身を外から客観的に見つめることのできる目」、すなわち、自分をモニターするもう一人の自分を作り上げることが必要となってくる。自分一人だけで行動していても、その「もう一人の自分」は形成されない。生徒は、学習活動をともに行う仲間や指導者との絶え間ないコミュニケーション活動を通じて、その仲間や指導者の考え方や知識、技能、評価等を内面化することによって初めて客観的に自分を見つめることのできる目が育っていくと考えられる。自己評価に取り組ませることも必要ではあるが、それ以上に、指導者による他者評価や生徒同士による相互評価に重点を置くことが大切であると考えている。

### Ⅴ 本年時の取り組みの重点

#### 1 「表現する力」の到達目標の見直しと「自己表現活動」の内容や形態の工夫、改善、開発

3年間を見通して設定した各学年ごとの到達目標を見直し、本年度の新たな指導計画を作成する。そして、その到達目標に沿って、より豊かな自己表現が可能な活動の工夫、改善、開発を行う。具体的には、学習した語彙や文法を活用しながら、インプットとアウトプットの適切なバランスに配慮したコミュニケーション活動に、ペアや小グループの形態で積極的に取り組ませていく。学習指導要領においては、音声によるコミュニケーションをより重点的に取り扱うように述べられているが、しかし、それは従来の「読む」「書く」に偏りがちだった学習方法への反省から、4技能のバランスがとれた学習方法への移行を示唆したものであると考えたい。特に昨今はインターネットや携帯端末の普及

により、音声よりもコンピュータや携帯電話による文字を媒体としたコミュニケーションの頻度が飛躍的に増大しつつある。実際本校においても、ALTとの打ち合わせは、電子メールによる打ち合わせの機会が非常に多くなってきている。音声を主としながらも、「読む」「書く」の指導がなおざりにされるようなことが決してあってはならないのである。

## 2 評価活動の工夫、改善、開発

自己表現活動をより効果的なものにするための適切な評価活動について、次のような取り組みを行っている。

### (1) 信頼性、客観性のある評価活動の工夫

当然のことながら、評価は客観的で誰が見ても信頼性があるものでなければならない。そのために、

- ①学校全体としての明確な評価基準（カッティングポイント）を設定する。
- ②行おうとする評価が、形成的評価にとどまるものなのか、それとも総括的評価を見通した評価であるのかを明確に区別した評価を行う。
- ③総括的評価につながる評価活動である場合は、出来るだけ、「同一規準で」「同一時間内に」「学級の全生徒に対して」評価が行われるように配慮しなければならない。

### (2) 自己評価力を高めるための工夫

#### ①多様なコミュニケーション活動の導入

前述のように、「自己評価力は、互いに信頼し合い、支え合う集団の中でのコミュニケーション活動を通じて養われる」と考えられる。出来る限りいろいろな人々との関わりが持てることに配慮しながら、多様な自己表現の場を与えることができるように努力している。

#### ②適切な評価規準（＝学習目標）の設定と提示

取り組んだ学習活動が満足のいくものであったのか、そうでなかったのかの自己判断は指導者によって与えられた評価規準（＝学習目標）をもとにして行われる。適切な自己評価が出来るようになるためには、学習者がそれらの規準を十分に理解でき、納得のいくものであることが必要である。そのために学習活動前にその活動のねらいが十分に分かるような説明に心がけている。

#### ③自己肯定感を高められるような自己評価カードの工夫

生徒が自分の課題に気づき、それを克服していけるようになるためには、自分が何をがんばったのか、自分の良さは何なのか、ということに気づき、自分で自分を褒めることのできるような肯定的な自己評価ができるようになることが必要であると考え。そのために自己肯定感を高めることができるような自己評価カードの工夫に取り組んでいる。

### (3) より簡便な評価方法の開発

コンピュータやインターネットを活用した評価方法の開発にも取り組んでいる。昨年末にCALLシステムが導入されてから、その可能性を探ってきたが、新しい評価方法に関しても有効であること

が分かってきた。具体的には、

#### ①コンピュータによる自動評価

カナダの Victoria 大学が提供している Hot Potatoes (<http://web.uvic.ca/hrd/halfbaked/index.htm>) という教材作成ソフトを使って自動評価機能付きの教材作成ができる。この教材をイントラネット上に置き、生徒各自にこの自動評価機能を利用して学習に取り組ませている。

#### ②ウェブサイトを利用した小テストの実施と成績管理

Quia Web (<http://www.quia.com/servlets/quia.web.QuiaWebManager>) というウェブサイトを利用したテスト作成と成績管理に取り組んでいる。このサイトでは、ネット上でいろいろなパターンのテスト作成ができ、生徒はインターネットを利用してテストを受ける。成績はテスト終了後ただちに生徒にフィードバックされ、それは QuiaWeb のサーバーに記録されて、指導者はいつでもそれを閲覧することができる。本年度は、3年生でこのサイトを利用した単語テスト、文法テスト、リスニングテスト等に取り組んだ。

#### ③CALLシステムのファイル回収機能を利用した評価活動

CALLシステムのCAI機能には、文書や音声のファイル一斉回収機能がある。それを利用して、スピーチの録音ファイルやクリエイティブライティングの原稿ファイルなどを回収して評価している。評価活動には時間をかけないで授業時間を確保し、評価にはじっくり時間をかけることが可能になった。

### 3 各学年の主な取り組み

〔1年生〕

ペアによる学習を多く取り入れ、相互評価に取り組ませている。他者の目から見た自分自身を知った上で、自己評価に取り組ませたい。

〔2年生〕

主としてペアワークを通じて、4技能のバランスを考えたさまざまな言語活動を取り入れている。特に「書くこと」の活動場面をより多く設定することにより、主体的に自分を表現しようとする意欲や関心を高めたいと考えている。

〔3年生〕

毎回異なったペアや3～4人の小集団による4技能のバランスに配慮した多様な活動をできるだけ多く取り入れていくことに重点を置いた学習活動に取り組んでいる。また、コンピュータの自動評価機能を利用した自己評価や、より簡便な評価法の一つとして、Quia Webを利用した小テストによる評価と成績管理にも取り組んでいる。

■資料1〔表現する力〕到達目標および各学年ごとの主な自己表現活動

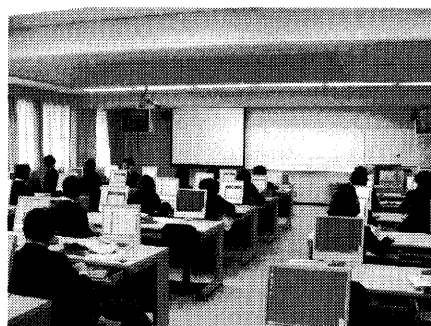
指導項目	1年生	2年生	3年生
言語材料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で扱う文法事項を理解し、使うことができる</li> <li>450語程度の単語の意味を理解し、うち350語程度を使うことができる</li> <li>初学者用の辞書の引き方が分かる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で扱う文法事項を理解し、使うことができる</li> <li>850語程度の単語の意味を理解し、うち500語程度を使うことができる</li> <li>初学者用の辞書を活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で扱う文法事項を理解し、使うことができる</li> <li>1,200語程度の単語の意味を理解し、うち600語程度を使うことができる</li> <li>初学者用の辞書を活用できる</li> </ul>
読むこと (音読)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の本文を正しい発音、イントネーション、強勢で音読することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音のつながりや強勢、イントネーションなどに気をつけて、適切な速さで正しく音読できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音のつながりや強勢、イントネーションなどに気をつけて、適切な速さで感情を込めて音読できる</li> </ul>
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な速さで相手を見て話すことができる</li> <li>簡単な質問ができる。また、質問に答えることができる</li> <li>自分のことについて2文以上で話したり、答えたりすることができる</li> <li>簡単な自己紹介や人物紹介ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音量や目線などに気をつけて、適切な速さで話すことができる</li> <li>身近なことについて会話を1分程度続けることができる</li> <li>理由をつけて、好きなこと、意見、感想などを述べるができる</li> <li>人や物について、相手に分かるように説明することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音量、目線、速さ、ジェスチャーなどを意識して、自然な感じで話すことができる</li> <li>身近なことについて会話を2分程度続けることができる</li> <li>聞いたことや読んだことについて、意見や感想を述べるができる</li> <li>人や物について、より分かりやすく説明することができる</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の基本文を正しく書くことができる</li> <li>モデル文を参考にして、身近なテーマでまとまりのある文を書くことができる(5～6文程度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英文(単文・重文)を正しく書くことができる</li> <li>身近な話題についてまとまりのある英文を書くことができる(10文程度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや説明が相手に分かるような英文(単文・重文・複文)を正しく書くことができる</li> <li>文章構成を考えて、まとまりのある英文を書くことができる(2～3段落の文)</li> </ul>
主な自己表現活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介をしよう(speech ①)</li> <li>スキットを演じてみよう ～落とし物～(skit ①)</li> <li>自分を語ろう(speech ②)</li> <li>スキットを演じてみよう ～電車で～(skit ②)</li> <li>ロールプレイをしよう ～ハンバーガーショップで～</li> <li>友達、家族を紹介しよう (show &amp; tell)</li> <li>スキットを作って演じてみよう ～お出かけ～(skit ③)</li> <li>Japanese traditions1 箏を説明してみよう</li> <li>Japanese traditions2 箏の奏法を伝えよう</li> <li>一日の生活を書こう</li> <li>記念撮影</li> <li>Winter vacation!</li> <li>朗読をしよう 由美の夢</li> <li>憧れのHollywood! ファンレターを書こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私の宝物(Show&amp;Tell)</li> <li>Diary(Writing)</li> <li>ゴールデンウィークの予定(Dialog)</li> <li>将来の夢(Dialog)</li> <li>夏休みの思い出(Speech)</li> <li>道案内(Speaking)</li> <li>私の意見(Writing)</li> <li>グリーティングカード(Writing)</li> <li>私の好きなもの、こと(Writing)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介文を書こう</li> <li>外国人に日本を紹介しよう (Speech)</li> <li>日本の風物の紹介文を英語で書こう</li> <li>修学旅行の思い出を書こう</li> <li>5行詩を書こう</li> <li>英語で意見を述べよう(Debate)</li> <li>スキットを作って発表しよう</li> <li>会話を楽しもう(電話・食卓で・道案内・買い物・病院で)</li> <li>感情を込めて読もう (Mother's Lullaby) (Freddie the Leaf)</li> </ul>

## ■資料2 CALL教室について

平成12年度にスタートした「ミレニアムプロジェクト」も丸6年が経過しようとしている。平成17年度末までには、「『すべての学校』の『すべての教室』の『すべての教科』の『すべての授業』において『すべての教員』がコンピュータやインターネットを活用できるようにする」という目標は、どれほど達成されているのであろうか。本校においても、この目標が達成されたとは言い難いが、昨年8月に長年の英語科教員の希望がついに叶えられ、旧LL教室が新しくCALL教室として生まれ変わった。本校のCALLシステムの内容を以下に紹介する。

### 〈ハードウェア関連〉

- (a) 生徒用コンピュータ40台
- (b) 指導者用コンピュータ1台
- (c) サーバー機1台
- (d) 制御用コンピュータ1台
- (e) ヘッドセット(マイク付き)41セット
- (f) プレゼン用ノートパソコン1台
- (g) プロジェクター及び天吊り型スクリーン
  - \* プロジェクターはノートパソコン、指導者用PC、DVD、VHSの各プレーヤーに接続
- (h) ワイヤレスマイク2個
- (i) スピーカー4個(教室の4隅に配置)
- (j) MD・DVD・VHS・CD・カセット各プレーヤー
- (k) A3モノクロレーザープリンタ



### 〈ソフトウェア関連〉

- (a) OS: Windows XP Professional
- (b) Internet Explorer 6
- (c) 環境復元ソフト「瞬快」
- (d) PC@LL DT(内田洋行)

## 実践例1 1年生

### 1. 題材 Japanese traditions ~Let's play the 箏!~

#### 2. 題材について

どんな生徒も少なからず、英語で話してみたいという欲求をもっているものである。しかし、教師や生徒間同士の対話については、ほとんどがYes、Noの受け応えにとどまってしまうのが現状で、生徒の「英語で話してみたい」という欲求は十分に満たされてはいない。原因として、①英語を用いてコミュニケーションをする機会、特に生徒が英語を使用する必然性を理解する機会が少ない。そのために、②コミュニケーションに必要な言語材料の選択や習得の判断が十分でない。したがって、③「英語で話せない」理由が不明瞭なまま、学習が漫然としたものに陥りやすい。ということ挙げたい。

十分な語彙がないままに伝えたいことを相手に的確に伝えることは確かに難しい。まず、どのような言語材料を身につけるのか、生徒自身が考えるべき場の設定が不可欠となる。外国人と接する機会をもち、対話の必要性和、伝えなければならないことがあるという状況を生じさせることで、生徒は英語でコミュニケーションするために必要なことの体得を目指すことになると思う。

本校英語科では学習の基礎・基本を、「①英語で初歩的なコミュニケーションができるための知識や技能」、「②人や題材に主体的にかかわって表現しようとする意欲や態度」、ととらえている。今回は、この基礎・基本の②に視点をあて、多くの生徒が楽しいと感じている箏の演奏方法を、本大学の留学生に伝えなければならないという場を設けた。

当該学級の生徒は、そのほとんどが4月からスピーチやスキットの発表に取り組んでいる。やや緊張は見られるものの、恥ずかしがらずにはきはきと発表できる生徒が多い。「英語で話すこと」に関心を持っている生徒が多く、外国人と実際にコミュニケーションすることで、「英語で伝えることができた」、「相手の伝えたい内容を理解することができた」という喜びを味わわせたい。そしてその体験が、自分の伝えたい事柄をもっと適切に、何とかして伝えよう、積極的にコミュニケーションしようとする意欲や態度がさらに膨らむことを狙いたい。

課題は、箏やその奏法の説明に必要な単語や英文を見出し、それを用い、body languageなども駆使してコミュニケーションすることである。ペアを組ませることで、刺激し合い、煩雑な作業に意欲を失わないように配慮する。さらに、ペア間の交流を通して学習活動が効果的かつ円滑に進むようにしたい。活動中に課題解決が困難だと判断した場合は、教師が既習の表現や、未習であっても比較的平易な表現を用いること等のアドバイスをし、生徒に「このくらいの表現でも十分、外国人に理解してもらえるんだ」という気付きや喜びを与えることができるように支援したい。このような学習活動を繰り返すことで、生徒の英語を話そうとする意欲や、コミュニケーション力が高まることを期待している。

また、自己評価の力がまだまだ未熟な生徒たちが、互いに評価し合うことで、自分の学習活動の内容や過程を振り返ることができるのではないかと考えた。まずはパートナーから学習活動について評価をもらう。そして、その評価を見て自分の学習を振り返る、といった方法をとる。パートナーから見て、頑張っていたことや、次時に頑張してほしいことなども評価シートに記録される。そこには、他者の評価を受け入れる姿勢の育成もねらいとして加えたい。

#### 3. 学習目標と評価規準

##### (1) 単元の学習目標

学習の目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・箏やその奏法を説明する英文を書くことができる</li><li>・箏やその奏法をわかりやすく説明し、箏という伝統的な楽器の魅力を伝えることができる</li><li>・積極的に学習活動に取り組み、英語やジェスチャーなど、何らかの方法で外国人とコミュニケーションすることができる</li></ul>
-------	---

(2) 単元の評価規準

基礎・基本		①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
聞くこと	具体的評価規準	(言語活動への取り組み) ア、外国人の話を、興味を持って聞こうとしている		(正確な聞き取り) ア、活動前の簡単な自己紹介を正しく聞き取ることができる	
		(コミュニケーションの継続) イ、Pardon?などを用いて、聞き取れなかったことを聞き返したり、Please speak slowly. などを用いたりして、外国人の話を何とかして聞き取ろうとすることで、コミュニケーションを続けようとしている		(適切な聞き取り) イ、箏とはどんな楽器なのか、また箏の奏法を伝える場面でどんなことを尋ねられたのかをおおよそ理解することができる	
話すこと	具体的評価規準	(言語活動への取り組み) ウ、間違いを恐れず、外国人に自分が話したいことを伝えようとしている エ、ペアワークに積極的に参加しようとしている	(正確な発話) ア、命令文や勧誘文を用いて、箏の奏法を正しく話することができる		(言語についての知識) ア、命令文や勧誘文の構造についての知識がある
		(コミュニケーションの継続) オ、つなぎ言葉を用いたり、ジェスチャーなどを用いたりしながらコミュニケーションを続けようとしている	(適切な発話) イ、箏やその奏法を伝えるために適切な語彙を用いて、外国人にわかりやすく説明することができる		
読むこと	具体的評価規準	(言語活動への取り組み) カ、発表に向けてペア、またはグループで作成した原稿を読むことに積極的に取り組んでいる	(正確な音読) ウ、作成した原稿に書かれた英文や単語を正しく発音し、英語らしく読むことができる		(言語についての知識) イ、語句の発音や文の強勢などについての知識がある
書くこと	具体的評価規準	(言語活動への取り組み) キ、間違いを恐れず、積極的に英文を書こうとしている	(正確な筆記) エ、命令文や勧誘文を用いて、箏とはどんな楽器なのか、や箏の奏法を正しく書くことができる		(言語についての知識) ウ、命令文や勧誘文の構造についての知識がある
			(適切な筆記) オ、箏とはどんな楽器なのか、や箏の奏法を伝えるために、適切な語彙を選択し、英文を書くことができる		



(3) 総括的評価に繋げる評価活動と規準について

a) ワークシートを用いた評価 (第4時、第8時)

	A	B	努力を要する生徒への手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	前時の学習活動を振り返り、コミュニケーションするために必要なことは何かをペアで積極的に意見を交わし、それをもとに、今後の学習に見通しを持つことができる (話すこと/言語活動への取り組み)	前時の学習活動を振り返り、コミュニケーションするために必要なことは何かをペアで積極的に意見を交わすことができる (話すこと/言語活動への取り組み)	前時の学習活動について感じたことを個別に聞き、書き出させる

b) 活動の観察による評価 (第3時、第7時)

	A	B	努力を要する生徒への手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	間違いを恐れず、常に積極的に箏とはどんな楽器なのか、や箏の奏法を外国人に伝えようとしている (話すこと/言語活動への取り組み)	間違いを恐れず、箏とはどんな楽器なのか、や箏の奏法を外国人に伝えようとしている (話すこと/言語活動への取り組み)	正確な発話がなくても、単語だけでも話そうとする態度を評価し、コミュニケーションを促す

c) ペーパーテストによる評価 (後期中間考査)

	A	B	努力を要する生徒への手立て
表現の能力	命令文や勧誘文を用いて、箏の奏法を3文以上の英文で間違ふことなく、正確に書くことができる (書くこと/正確な筆記)	命令文や勧誘文を用いて、箏の奏法を3文以上の英文で多少の文法の誤りがあっても、書くことができる (書くこと/正確な筆記)	放課後の勉強会に参加させ、命令文や勧誘文の構造や意味を再指導する

	A	B	努力を要する生徒への手立て
言語や文化についての知識・理解	命令文や勧誘文の構造や意味を問う問題に75%以上、正解している。(書くこと/言語についての知識)	命令文や勧誘文の構造や意味を問う問題に50%以上、正解している。(書くこと/言語についての知識)	放課後の勉強会に参加させ、ドリル問題の個別指導を行う

d)スピーキングテストによる評価 (第8時)

	A	B	努力を要する生徒への手立て
表現の能力	英語らしい発音で、正確に箏の奏法を説明することができる (話すこと/正確な発話)	正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて、箏の奏法を説明することができる (話すこと/正確な発話)	個別に原稿の音読練習を指導する

次の4. 単元構成表では全時のすべての活動に評価規準を示しているが、教師の活動の観察によって、規準Bを満たすと判断される学習者にはさらに発展的な学習活動となるよう支援し、規準Aを満たすよう、または近づくように指導するための規準である。また、努力を要すると判断される学習者には個別指導を行い、学習活動に参加できるように支援する。放課後の勉強会は毎週、月曜日と木曜日に本大学の学生ボランティアとともにやっている。

4. 単元構成表 (指導と評価の計画)

学習過程	学習の中心	基礎・基本を定着させるための視点	おおむね満足できる状況 (評価規準) B	十分満足できると判断できる視点 (評価規準) A	努力を要すると判断された生徒への手だて	「学びの拓き」に関わる力	単元の評価規準との関連	評価方法
第1時	<p>日本の伝統について考える</p> <p>・身近な日本の伝統にはどんなものがあるのか、グループ別に考え、意見を出し合う</p> <p>・伝統楽器「箏」とはどんな楽器なのかを外国人に伝える原稿を作成する</p>	<p>・音楽科で学習した箏があることに気づかせる</p> <p>・伝えるためにはどんな語彙が必要なのかをグループ別に考えさせる</p>	<p>・グループワークに積極的に参加しようとしている</p> <p>・外国人に伝えるための適切な語彙を選択することができる</p>	<p>・常にグループワークに積極的に取り組み、自分の意見を述べるこゝとができるか。</p> <p>・常に外国人に伝えるための適切な語彙を選択することができるか</p>	<p>・個別に指導し、積極的に話しかけるよう促す。</p> <p>・個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる</p>	<p>・課題をとらえる力 (問題)</p> <p>・自分の意向が正しく伝わるように書く力</p>	<p>①ー工</p> <p>②ー工</p>	教師の観察
第2時	<p>原稿作成</p> <p>・原稿を作成する</p>	<p>・適切な語彙を選択できるよう支援する</p> <p>・可能な限り、作文指導を行う</p>	<p>・外国人に伝えるための適切な語彙を選択することができる</p>	<p>・常に外国人に伝えるための適切な語彙を選択することができるか</p>	<p>・個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる</p>	<p>・自分の意向が正しく伝わるように書く力</p>	<p>①ーキ</p> <p>②ー工</p>	相互評価 自己評価 教師の観察
第3時	<p>発表練習</p> <p>・原稿をもとに、説明する練習をグループごとに行う</p>	<p>・グループで発表練習に取り組ませる</p> <p>・単語の発音は何度も指導にあたる</p>	<p>・単語の強勢、イントネーション、区切りなどをを用いて話すことができる</p>	<p>・常にスムーズに英語らしく話しているか</p>	<p>・個別指導を行い、繰り返し練習させる</p>	<p>・自分の伝えたいことを正しく伝えるように話す力</p>	<p>①ーカ</p> <p>②ーウ</p>	相互評価 自己評価 活動の観察
第4時	<p>発表1</p> <p>・作成した原稿をもとに、外国人留学生に、箏とはどんな楽器なのかをグループ別に伝える</p>	<p>・聞かれていないことが理解できないときは、アドバイスする</p>	<p>・間違いを恐れず、積極的に外国人に箏とはどんな楽器なのかを伝えようとしているか</p> <p>・箏とはどんな楽器なのかをわかりやすく伝えることができる</p>	<p>・常に間違いを恐れず、積極的に箏とはどんな楽器なのかを伝えようとしているか</p> <p>・命令文や勧誘文を用いてわかりやすく箏とはどんな楽器なのかを伝えることができるか</p>	<p>・正確な発話がなくなるとも、単語だけでも話そうとする態度を評価し、コミュニケーションを促す</p>	<p>・質問の内容を正しくとらえる力</p> <p>・工夫をして話しが続くようにする力</p>	<p>①ーウ</p> <p>①ーオ</p> <p>②ーイ</p>	相互評価 自己評価 教師の観察
第5時	<p>発表1の振り返り</p> <p>・気づいたこと、思ったことを書き出し、どんな方法がよかったのかを考える</p>	<p>・次回の発表の課題が発見できるよう、発表の振り返りを記入させる</p>	<p>・ペアワークに積極的に参加している</p>	<p>・常にペアワークに積極的に参加し、自分の意見を発表できるか</p>	<p>・個別に感想を聞き、書き出させる</p>	<p>・課題をとらえる力</p>	<p>①ー工</p>	ワークシート 教師の観察

	原稿作成	・ 箏の奏法を外国人に伝えるための原稿を作成する	・ 必要な語彙をペアで考え、文章にさせる	・ 間違いを恐れず、積極的に書くこととしている	・ 既習事項を積極的に活用しながら常に工夫して書くこととしているか	・ 個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる	①-キ ②-エ ②-オ	相互評価 自己評価 教師の観察
第5時	原稿作成	・ 原稿を作成する	・ 必要な語彙をペアで考え、文章にさせる	・ 間違いを恐れず、積極的に書くこととしている	・ 既習事項を積極的に活用しながら常に工夫して書くこととしているか	・ 個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる	①-キ ②-エ ②-オ	相互評価 自己評価 教師の観察
第6時	原稿作成	・ 原稿を作成する	・ 必要な語彙をペアで考え、文章にさせる	・ 間違いを恐れず、積極的に書くこととしている	・ 既習事項を積極的に活用しながら常に工夫して書くこととしているか	・ 個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる	①-キ ②-エ ②-オ	相互評価 自己評価 教師の観察
	発表練習	・ 原稿をもとに、伝えるために発音の練習に取り組む	・ ペアごとに発表の練習を行わせ、発音の指導を行う	・ 単語の強勢、イントネーション、区切りなどをを用いて話すことができる	・ 常にスムーズに英語らしく話しているか	・ 個別指導を行い、繰り返し練習させる	①-カ ②-ウ	相互評価 自己評価 教師の観察
第7時	発表 2	・ 外国人に、箏の奏法についてペアごとに伝える	・ 聞かれていることが理解できないときは、アドバイスする	・ 間違いを恐れず、積極的に外国人に箏の奏法を伝えることとしている	・ 間違いを恐れず、常に積極的に箏の奏法を伝えることとしているか	・ 正確な発話がなくても、単語だけでも話そうとする態度を評価し、コミュニケーションを促す	①-ウ ①-オ ②-イ	相互評価 自己評価 活動の観察
第8時	まとめ	・ 前時をふり返り、外国人とコミュニケーションする際にはどんな要素が必要なのかを考える	・ ペアで考え、意見を出しやすくする	・ ペアワークに積極的に参加し、自分の意見を発表できている	・ ペアワークに常に積極的に参加し、自分の意見を発表しているか	・ 個別に感想を聞き、書き出させる	①-エ	ワークシート 自己評価 教師の観察
	Speaking Test	・ ペアで協力して、箏の奏法を教師に英語で説明する	・ ゆっくりと丁寧に発音するよう指導する	・ 単語の強勢、イントネーション、区切りなどをを用いて話すことができる	・ 常にスムーズに英語らしく箏の奏法を話しているか	・ 個別に原稿の音読練習を指導する	②-ア	教師の評価

## 5. 本時の目標

- 間違いを恐れず、外国人に箏の奏法を外国人に伝えようとしている。(意欲・関心・態度)
- 箏やその奏法について、外国人にわかりやすく説明することができる。(表現の能力)

## 6. 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
1. Warm-up ・挨拶する ・英語で簡単な受け答えをする	・英語を話そうという雰囲気を作る ・自信を持って答えられる質問にする	
2. Introduction ・「さくら さくら」を演奏し、外国人に聞いてもらう ・英語で活動を説明する	・生徒が理解できる英語でこれから行うことを指示するよう心がける	
3. Activities ・外国人に箏の奏法を説明する ・外国人に「さくら さくら」を演奏してもらい、コミュニケーションの成果を確認する	・生徒の活動の様子を観察し、外国人に伝えるためのアドバイスをする	ワークシート (評価の観点) ①一オ ②一イ
4. Consolidation ・パートナーに評価シートを記録してもらい、学習を振り返る	・外国人からもコメントをもらうように指示する	評価シート

## 7. 結果と考察

### ①音楽科とのコラボレーション

今年度、第一学年では音楽科と英語科が国際理解教育の時間枠を持つことになった。音楽科ではここ数年、和楽器の響きを通して生徒に音を楽しむ心と態度の育成を目指して箏を扱い、箏や箏の奏法などの学習したことを他者に伝え、学習を深めるという実践を行ってきた。前期には生徒がそれまでの学習をふり返り、本校教職員に箏の奏法を伝えるという授業を参観、体験させていただいた。その対象を今度は留学生にし、英語で箏の奏法を伝えるという授業内容が決定した時には正直、生徒がどれだけ話することができるだろうか、文法力も語彙力も極めて少ない中でどう伝えることができるのだろうかと不安を感じた。一年生の生徒では使える文法や構文、語彙など、それらを全て駆使しても外国人とコミュニケーションを交わすのは難しい。しかし、「英語で話さなければならない状況では、たとえ話すことが出来なくても話そうとするのではないだろうか、何らかのコミュニケーションを交わそうとするのではないか。たとえコミュニケーションがとれなくても、とろうとする意欲が一番大事なことなのだ。」と思い、音楽科との合科によって本校英語科の基礎・基本の一つである、生徒の「人や題材に主体的にかかわって表現しようとする意欲や態度」の育成を目指すことになった。

### ②本単元をふり返って

本単元の第三時で留学生との交流授業を持ち、生徒は留学生に箏とはどんな楽器なのかを説明した。留学生の都合で生徒6~7名に留学生が1人という状況であったため、一言も話すことができずにいた生徒もいたが、実際に留学生と交流したことにより、自分たちの少ない語彙や文法の知識でどうすれば伝わるのかを考える機会を持ち、生徒は単語だけでも伝わるということ、短い英文の方が伝わりやすかったこと、発音にもっと気をつけなければならないこと、時にはジェスチャーも必要であることなど、英語でコミュニケーションを交わすた



めの基本的なことに気付くことができた。(資料 1) その後のペアによる原稿作成では言いたいことをできるだけ短い英文で考えたり、電子辞書を用いて数種類の単語の中から適切な単語を選ぼうとしたりする活動が多く見られた。実際に、研究会での交流授業では‘Relax, please.’や‘Sit down like me!’など、平易な表現でコミュニケーションを交わす生徒が多かった。また、楽譜を説明するときには、‘Seven, seven, eight. This is seven.’と文法上の誤りは見られたものの、ジェスチャーを交えて英語で伝えようとしている生徒や、自分が弾いて見せた後、単語だけで留学生に弾き方を伝えようとしている生徒もいた。

原稿を作成している段階で感じたのは英作文指導の必要性だった。ほとんどの生徒が日本語の字面にとらわれ、英作文に悩むことが多かったからである。「手で呼吸するように弾いて下さい。」や「箏に対して斜めに座って下さい。」という説明では日本語通りに英語で説明することが難しく、手で呼吸するとはどういうイメージなのかを問い、イメージを伝えることにした。習ったことも、聞いたこともない文型を用いて説明したり、文法にとらわれて長い英文で説明したりするよりも、生徒が表現しやすいし、留学生にも伝わりやすいと思ったからである。また、座り方の説明についても既に習った命令文や依頼の文型を用いるためにはどうすればいいのかを考えさせることで、生徒の英作文に対する嫌悪感や負担を軽減することができたように思う。

### ③表現力を高める評価活動について

自分で自分の学習をふり返り、自分の中にある規準で過大でも過小でもない評価を自分に与えることは本当に難しいことであり、究極の評価と言える。そこで本校英語科では「自己評価力は、互いに信頼し合い、支え合う集団の中でのコミュニケーション活動を通じて養われる」と考え、一年生では他者からの評価を受け入れる姿勢の育成を目指してきた。本単元ではペアで学習活動を行い、示された規準をもとに頑張っていたこと、次時にしなければならないことを互いに出し合い、パートナーからの評価を見た後で自己評価を行うようにした。(資料 2) まだまだ評価の力が未熟な生徒は批判的な意見を出されると認めたくないという気持ちが働き、相手のことを批判的に見てしまいがちであったため、生徒の活動の様子を観察しながら必要を感じた時には個別に指導したり、ペアで話し合いをするよう指導したりした。

また、第三時と第七時の交流授業では留学生からも評価をしてもらうようにした。留学生に評価規準を説明する時間がなかったため、項目は①生徒の伝えようとしていることを理解することができたか、②自分の話した内容を生徒が理解できていたかどうかの二点について、少しでもできていたら褒めるように伝え、生徒の評価シートに記入してもらった。規準がわかりやすかったことや留学生の反応で活動の成果をすぐに自分で確認できることにより、留学生からもらう評価やコメントに対して生徒は素直に受け入れ、自分たちの学習を的確にふり返ることができていた。ほとんどの留学生が少ししか話さなかった生徒にも肯定的な評価をしてくれたので、「きちんと原稿を作成して、次もコミュニケーションできるようにしよう」、「次はもっと話すようにしよう」という生徒の意欲を引き出すことにつながった。

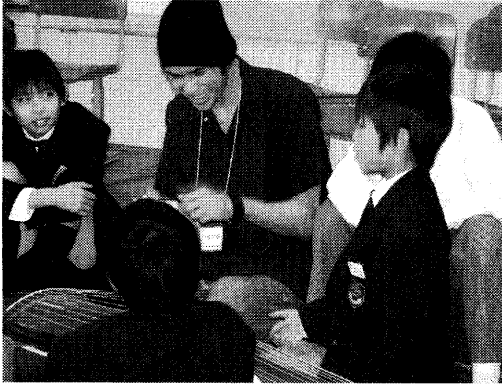
### ④反省と今後の課題



研究授業後の協議会で、指導助言の先生から二点、ご指摘をいただいた。まず一つめは「箏を弾きだしたら英語でコミュニケーションどころではなくなってしまうだろう」という内容である。私は、実際はその逆であったと思う。生徒は箏の弾き方を正確に伝えなければならないという義務感に満ちており、目の前に実物の箏があるから自分の知識でも何とかなるだろうという安心感を覚えることができる。実演も実物もなければ伝えることは非常に困難なことである。実物があるからこそ伝えやすいし、伝わりやすいのである。箏を弾くときは静かに、心を落ち着けなければ

ならないので、お手本を見せるときは何も話さないが、留学生が弾きだしたら、‘No, no!’や‘Good!’ ‘O.K!’などと、間違いを注意したり上手なところを褒めたりしながらほとんどの生徒が意欲的に伝えようとしていた。

二つめは評価規準の設定についてであった。第七時の評価規準をコミュニケーションへの関心・意欲に絞り、表現の能力については設定するべきではなかったという内容である。第三時の活動では十分に原稿作成の時間



がとれなかったにもかかわらず、大半の生徒が様々な工夫をしてコミュニケーションを交わそうとする様子を観察し、生徒のコミュニケーションへの十分な関心・意欲を見ることが出来た。しかしコミュニケーションとは意欲だけで交わすことができるものではない。相手に自分の伝えたいことを正確に伝えてこそ、コミュニケーションが成立する。伝える力とは表現の力である。その根底には適切な単語を選ぶということが存在する。原稿作成時に適宜指導、評価を行ってはきたが、その成果を実際に生徒が感じ取ることができるのは二度目の交流授業でしかない。生徒自身が留學学生に理解してもらえた、あるいは理解してもらえなかったと感じ取った時にこそ、それを評価する意味があるのではないかと私は思う。

原稿作成時に感じた「英作文指導」については、授業での文法学習の不足がより明らかになった。最近の教科書は「会話活動」に主眼が置かれている物が多く、教科書に頼りすぎると文法がなおざりになりがちである。かつてのような文法の詰め込みであってはならないが、主語や動詞の並びといった英作文をする上で最低限の知識は必要である。生徒に負担を感じさせずに文法学習を日々の実践に組み込み、四技能をバランスよく身につけさせる指導の工夫が必要であることを大いに感じた。コミュニケーションの基礎にはやはり、文法などの学習が積み上げられていないと話すことが出来るという自信にも、話そうという意欲にもつながらないだろう。本単元の活動を通して、生徒自身も「もっと単語を知らなければいけない」、「文法を知らないと文を作ることが出来ない」というようなコミュニケーションに必要なことに気づくことができた。また、外国人と実際に英語を用いてコミュニケーションを交わすことが出来たという体験を通して伝える喜び、伝わった喜びを味わうこともできた。(資料 3) 学ぶ意欲は分かりたいという欲求と、分かったときの喜びを感じて初めて高まるものである。同じように伝えたいという欲求と伝わったという喜びを感じることができた生徒は本当に有意義な時間を過ごすことができたのではないと思う。今後も、本物のコミュニケーション活動ができる機会を持ち、生徒の英語で話そうとする意欲を引き出すこと、そしてコミュニケーションができるための知識や技能の必要性を感じさせること、さらにそれらを身につけさせる授業の形態や内容の研究により一層、取り組んでいきたい。









<資料 3>

Japanese traditions

You told how to play the So to the foreign people in the last lesson.

◦ヘアで外国人に事を説明するとき、どんな点を工夫しましたか？  
また、どのように感じましたか？

説明する時、たまに日本語で話してしまったりけれど、英語で話して、「お、よか言われると自分の英語が伝わっているんだなと実感することができました。また、事を分かってもらうために手で表現したりして、工夫しました。

◦自分が使った表現の中で、分かってもらえた表現はどんな文、または方法でしたか？

分かってもらえた表現は「Ryukaku, Y' to, I, Kin」を説明する所でした。あと、「Please do like me」と言って分かってもらうことができました。

◦外国人とコミュニケーションをするのにどんなことが大切だと思いますか？

英語がわからなかったら手で表現をしたりできるから外国人とコミュニケーションをするのに積極的に話したり自分で表現することが大切だと思います。

Japanese traditions

You told how to play the So to the foreign people in the last lesson.

◦ヘアで外国人に事を説明するとき、どんな点を工夫しましたか？  
また、どのように感じましたか？

又、自分の言葉をよく説明して本音を伝えるようにした。また、なるべく手や指を使って説明できるようにした。また、外国人が分からない時は時間をかけて説明したり、目で見てもらうようにした。

◦自分が使った表現の中で、分かってもらえた表現はどんな文、または方法でしたか？

手や指を使って「Ryukaku, Y' to, I, Kin」を説明する所でした。

◦外国人とコミュニケーションをするのにどんなことが大切だと思いますか？

日本人の英語が分からない時は通じないから、少くも英語は話してあげよう。そして、外国人の話をよく聞いたり、自分もよく話したりして、お互いに理解し合えるようにしたい。説明が上手い人がいいから、自分も説明が上手いようにしたい。

Japanese traditions

You told how to play the So to the foreign people in the last lesson.

◦ヘアで外国人に事を説明するとき、どんな点を工夫しましたか？  
また、どのように感じましたか？

すごく喜んでくれた。工夫した点は、象の足やごみ袋ながらリズムをとったりした点。どのように感じましたか？プリントに「象」をハンドおえながらリズムをとって、おたのしみ、楽しみの気持ちを伝えてくれたので、すごく楽しい気分になりました。

◦自分が使った表現の中で、分かってもらえた表現はどんな文、または方法でしたか？

左手について、お手を動かして「Ryukaku, Y' to, I, Kin」を説明する所でした。（Please do like me」と言いつつ、手を動かして）  
散髪をする時の指の形。（実際に指を動かして見せた）

◦外国人とコミュニケーションをするのにどんなことが大切だと思いますか？

手や指を使って説明する方が理解しやすいと思う。途中で分からない場合は、最後までやり遂げようと思えば大丈夫だと思います。

Japanese traditions

You told how to play the So to the foreign people in the last lesson.

◦ヘアで外国人に事を説明するとき、どんな点を工夫しましたか？  
また、どのように感じましたか？

言葉が通じないから、手や指を使って説明したり、外国人が分からない時は、時間をかけて説明したり、目で見てもらうようにした。

◦自分が使った表現の中で、分かってもらえた表現はどんな文、または方法でしたか？

手や指を使って「Ryukaku, Y' to, I, Kin」を説明する所でした。（Please do like me」と言いつつ、手を動かして）  
散髪をする時の指の形。（実際に指を動かして見せた）

◦外国人とコミュニケーションをするのにどんなことが大切だと思いますか？

日本人の英語が分からない時は通じないから、少くも英語は話してあげよう。そして、外国人の話をよく聞いたり、自分もよく話したりして、お互いに理解し合えるようにしたい。説明が上手い人がいいから、自分も説明が上手いようにしたい。

<生徒ワークシートより>

Japanese Traditions ~Let's play the 箏!~

Class B No.   
 Name

Please introduce the Japanese traditional instruments. 箏 in easy English.



1. Please sit down like me. (座て見せる)
2. Please put down your hands like me.
3. 箏の形(箏の形)をお手本で教える。(お手本)
4. Use your fingers like this. (指の使い方)
5. Please play the 箏 like me. (弾き方)

Japanese Traditions ~Let's play the 箏!~

Class B No.   
 Name

Please tell the foreign people how to play it.

① Before you play the So

- sit up straight. (like me) 姿勢・正座
- put on your tune. (like me) 糸をはめる。
- crook your elbow. (like me) ひじを曲げる。
- finger is on the gen. (like me) 指を弦の上におく。
- You pick gen, please. (like me) 弦を弾く。

② How to play the So

② How to play the So

How to play: Touch second and third gen. With third finger and fore finger.

how to touch: (third finger, fore finger)

how to touch: (thumb)

Pick after

Japanese Traditions ~Let's play the 箏!~

Class B No.   
 Name

Please introduce the Japanese traditional instruments. 箏 in easy English.

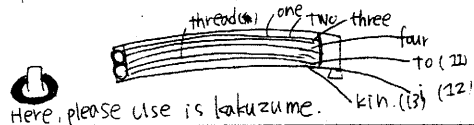
Japanese Traditions ~Let's play the 箏!~

Class B No.   
 Name

Please tell the foreign people how to play it.

① Before you play the So

This is So this very beautiful tone. Japan traditional instrument. please sit down like me.



② How to play the So

- first seiza please. (正座をして下さい)
- body diagonal. (体を斜めにして下さい)
- Next put nail please. (次に釘をはめて下さい)
- elbow stretch please. (肘を伸ばして下さい)
- Let's play the So. (箏を弾きましょう)
- You play the in hismic. (うたを呼んで下さい)
- Look at me. (私を見て下さい)
- Look at music. (楽符を見て下さい)

実践例2 (2年生英語)

① 題材 NEW HORIZON English Course 2 [ Unit5 A Park or a Parking Area? ]

② 題材について

中学校の外国語(英語)教育の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことである。さまざまな場面において英語に親しみ、初歩的な英語を用いて「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を機能させてコミュニケーションが行われなければならない。この単元では接続詞を使って文と文をつなげることにより、1つの文で表現されている英文よりもより詳しく内容を理解したり、表現したりできるようになることを目標としている。また、理由や根拠を表すための接続詞を用いて自分の考えに理由をつけて述べるができるようになることもねらいとしている。そして本校英語科では学習の基礎・基本を①英語で初歩的なコミュニケーションができるための知識や技能②人や題材に主体的にかかわって表現しようとする意欲や態度ととらえている。

そこで本題材を②と関わって、生徒たちの身近な問題に対して自分の考えを持ち、意見を述べることを通して、これまでよりも長い文を理解し、自分の考えや意見を詳しく文の中に入れ、何とか伝えようとする態度を身につけさせることをねらいとした。

中学2年生という時期は英語学習に関してはまだまだ初期の段階であるものの、生徒たちの習熟度にはすでに差があり、自分から進んだ学習をしていて、より高い英語力を身につけたいと思っている生徒と、英語の学習に対して「どうせできないから」や「何もわからないから」などと学びそのものをあきらめてしまっている生徒もいるように思われる。そこで、「自分でもできる」や「たくさんのことを英語で表現したい」などの意欲を高めるための評価活動にも取り組んでいる。例えばライティング活動で、書く内容や分量は特に限定せず、自分の興味・関心に応じて、自分のペースで活動を行わせる。自分のがんばった所がどこであったかがわかるような自己評価をさせたり、相手のよかった所を見つけ、それを自分の活動に生かしたりすることで、達成感や英語学習への意欲を高め、自らの学びを拓く評価活動を目指している。

③ 学習目標 (評価規準の設定 基礎・基本)

基礎・基本	学習の目標	・接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。 ・問題に対する自分の考えを整理し、意見を述べるすることができる。
コミュニケーションへの意欲・関心・態度	A. 自分の考えや意見を英語で書こうとしている(書くこと) B. 興味や関心を持って教師や生徒の英語を聞こうとしている(聞くこと)	
表現の能力	C. 接続詞を用いた文を、相手に正しく伝わるように話すことができる(話すこと) D. 接続詞を用いた文を正しく書くことができる(書くこと) E. 接続詞を用いた文を使って、自分の意見を英語で書くことができる(書くこと)	
理解の能力	F. 接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる(書くこと・話すこと) G. 接続詞を用いた文を正しく聞き取ることができる(聞くこと) H. Unit5の内容について理解することができる(読むこと)	
言語や文化についての知識・理解	I. 接続詞を用いた文の構造・意味について知識がある(読むこと) J. Unit5に出てくる語句の意味が分かり、そのいくつかについて正しく書くことができる(読むこと・書くこと)	

④学習計画 (全8時間)

- 第1時 Starting Out (P, 46)  
if節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。
- 第2時 Dialog (P, 47)  
that節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。
- 第3時 if節・that節を用いた文を使って自分の考えを表現する。
- 第4時 Reading for communication (P, 48)  
when節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。
- 第5時 Reading for communication (P, 49)  
because節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。
- 第6時 接続詞を用いた文を使って意見交換をする。(本時)
- 第7時 意見交換の結果を発表する準備をする。
- 第8時 意見交換の結果を発表する。

⑤本時の目標

- ①問題に対する自分の意見を持ち、それを英語で伝えようとする。
- ②相手の意見を受けて自分の意見を持ち、英語で表現することができる。

⑥本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
<p><b>Warm-up</b></p> <p>あいさつをする 簡単な質問に答える</p>	<p>英語で学習する雰囲気を作る 平易な表現を用いて質問をする</p>	<p>疑問詞カード</p>
<p><b>Introduction</b></p> <p>前回の意見を思い出させ、考えの書き方を確認する 問題に対し、賛成か反対かの意見を持つ</p>	<p>トピックを知らせる 意見を述べる時によく使われる言い方を紹介する</p>	
<p><b>Activity</b></p> <p>トピックに対する意見を考える、理由を英文で表現する ペアと意見の交換をする 相手の意見に対するコメントを書く 相手のコメントを読み、自分の意見をもう一度考える。</p>	<p>机間指導し、必要に応じ個別指導を行う。 基本的な語彙の確認や習得にも配慮し、表現の広さを確保して、英文が書けるように工夫する。</p>	<p>ワークシート 評価A、E</p>
<p><b>Consolidation</b></p> <p>自己評価をする  ペアの評価をする</p>	<p>特に自分が努力できた点について評価をさせる  相手が努力していた点、自分の目標となるようなよかった点について評価させる</p>	<p>評価シート</p>

## ⑦結果と考察

今回の単元では、身近な問題に対して自分の考えを持ち、それに対し意見を述べることを通して、これまでよりも長い文を理解し、自分の考えや意見を詳しく文の中に入れ、何とか伝えようとする態度を身につけさせることをねらいとした。書く内容や分量は特に限定せず、自分の興味・関心に応じて生徒自身のペースで活動を行わせることにより、「どうせできないから」と学習することをあきらめていた者も活動に取り組むことができた。また、相互評価させることにより、他者の優れている点に目を向けることができ、自分の活動に取り入れていくこともできた。自己表現の内容によってはクラスメイトの新たな一面を知ることができたこともあった。テーマに即してある程度まとまった英文を書くことに慣れることができた。「自分の考えや意見を持っているが、それを英語できちんと表現できないのが悔しい。自分の意見を完全に英語で表現したい。」という英文を書くことに対する意欲が高まった生徒も数多くいた。これらのことが成果であったと考えられる。

今回の活動を通して一番難しいと感じたのは、中学2年という段階の語彙力や表現力でどう英文を書かせるかという点である。語彙例や例文を示してしまうとその表現に偏ってしまう。全く何も与えないと英文を書く手が止まってしまう。そのような状況の中でどれだけのヒントを与えて、豊かな内容のものを書かせるかという点において課題が残っている。具体的に、ワークシートを使ってあらゆる表現を紹介したり、自分の英文を振り返らせたり、他者の英文を紹介したりという手立てができなかったことを反省している。生徒達は普段からさまざまな表現を学習し、インプットする機会がある。しかし、それをアウトプットする機会は案外少ない。知識としてさまざまな表現を習得していても、それを自分の表現としてアウトプットできる生徒は少ない。今後は、授業のウォームアップの場面、ALTとの対話、生徒間の対話などにおいて、自己表現ができる場をできるだけ多く設定し、すぐにアウトプットできる状態にして、自己表現に慣れておく必要があると思われる。そこから英文を書くことに繋げていくことができれば、たくさんのことを英語で表現したいという意欲を高めることにもなると考えている。

## 資料

### 意見交換 in English!

Kentaの意見

We can use a cell phone at school.

自分の意見を考えましょう。まず賛成か反対かをはっきりさせます。

賛成の場合

I'm for the opinion.

◎反対の場合

I'm against the opinion.

そのあとに自分の意見の理由を続けます。理由を言うときにはどんな語を使ったでしょう。

because I know that it's useful, but I think that

あなたの意見

I'm against the opinion because I know that it's useful, but I think that it's not necessary and I don't have it!

あなたの意見をペアと交換します。

ペアの意見

I think so, but cell phone is useful at school

### 意見交換 in English!

Kentaの意見

We can use a cell phone at school.

自分の意見を考えましょう。まず賛成か反対かをはっきりさせます。

賛成の場合

I'm for the opinion.

反対の場合

I'm against the opinion.

そのあとに自分の意見の理由を続けます。理由を言うときにはどんな語を使ったでしょう。

because It is useful when I forget things left be hind.

あなたの意見

I'm for the opinion because it is useful when I want to talk with my mother.  
I'm for the opinion because it is useful when I forget things left be hind. for  
I'm for the opinion it is necessary everything.

あなたの意見をペアと交換します。

ペアの意見

I think so, too because a cell phone is very good and very useful when I'm free.

Diary

Sunday, October, 16

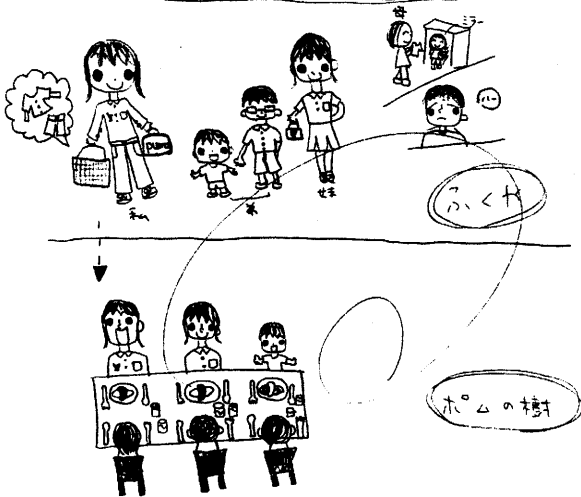
I went to the Ion with my family.

I bought a costume.

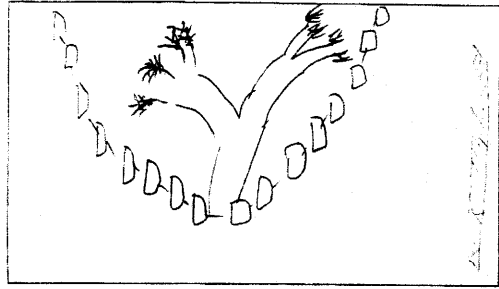
I ~~eat~~ ate an omelet containing fried rice.

It was very good !!

I had a good time.



My school



My school is big.

My school is beautiful.

My school has Neosarita ← Pine tree

My school has many class room.

My school has big ground.

Ground is very leage.

Soccer club uses that ground.

実践例3 3年生英語

1. 学年・学級 3年A組 40名 (男子20名 女子20名)
2. 授業場所 CALL教室
3. 題材 NEW HORIZON English Course 3 Unit 5 Video Games - For or Against?
4. 題材について

本単元は、討論を行うことを通じて自分の意見を英語で表現することをねらいとして設定されている。ビデオゲームは今やほとんどの生徒が所有しており、その是非についても生徒たちは比較的高い関心を示すと思われる。ただ、題材的には少し古くなってしまっていることは否めない。そこで、ユニットの学習後に自分たち自身の意見を交流する場面を設定するために、より生徒たちの関心が大きい「School Uniform」を取り上げることにした。中学生の力では、リアルタイムに英語で自由に意見交換を行うことは難しいが、グループで準備時間を設け、あらかじめ School Uniform に対するグループの立場を明確にし、グループとしての意見を考えさせることにより、英語による意見交換を行わせたい。また、現在分詞と過去分詞の後置修飾を用いた文の形、意味、用法を理解し、表現できるようにさせるとともに、間接疑問文の形、意味、用法が分かるようにさせたい。

5. 学習目標と評価規準

基礎・基本	学習の目標	①現在分詞及び過去分詞による後置修飾の形、意味、用法を理解し、それらを使って表現できる。また、間接疑問文の文型、意味、用法が理解できる。 ②討論においてよく使われる表現の意味が分かり、それらを使って自分の考えなどを表現できる。 ③書かれた内容について理解できる。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	A. School Uniformについて自分なりの意見を持ち、それを表現しようとしている (書くこと・話すこと) B. School Uniformについての相手の意見を積極的に聞いて理解しようとしている (聞くこと)	
表現の能力	C. 現在分詞及び過去分詞による後置修飾の形、意味、用法を理解し、それらを使って表現できる (話すこと) D. ALTの話す英語を、意味を伝えることを目的として正確に書くことができる (書くこと) E. 討論によく使われる表現 (What do you think? / I agree (disagree) with ~ / I (don't) think ~ / What (How) about ~? / The point is ~ / I see what you mean. / In my opinion,.... など) の意味、用法が分かり、それらを用いて自分の考えを表現できる (書くこと・話すこと)	
理解の能力	F. 現在分詞及び過去分詞による後置修飾の形、意味、用法を理解し、それらを使った英文を聞いて理解できる (聞くこと) G. ALTやJTLの話すこと、あるいはビデオの内容の大まかな意味をつかむことができる (聞くこと) H. Unit5の内容について理解することができる (読むこと)	
言語や文化についての知識・理解	I. 現在分詞及び過去分詞による後置修飾と間接疑問文の形、意味、用法についての知識が身についている (読むこと・書くこと) J. Unit5に出てくる語句の意味が分かり、そのいくつかについて正しく書くことができる (読むこと・書くこと)	

6. 学習計画 (全6時間)

第1時	Starting Out (P.54)	.....	1時間
第2時	Dialog (P.55)	.....	1時間
第3時	Reading for Communication 1 (P.56)	.....	1時間
第4時	Reading for Communication 2 (P.57)	.....	1時間
第5時	School Uniform についての意見交流 1	.....	1時間 (本時)
第6時	School Uniform についての意見交流 2	.....	1時間

7. 本時の目標

- 討論によく使われる表現 (What do you think? / I agree(disagree) with ~ / I (don't) think ~ / What (How) about ~? / The point is ~ / I see what you mean. / In my opinion,.... など) の意味、用法が理解できる。またそれらを用いて自分の考えなどを表現できる。
- School Uniform について、その是非について自分なりの意見を持ち、グループの他のメンバーと協力しながら、グループとしてまとまりのある意見を考えるために努力することができる。

8. 本時の展開 「\*評価」の記号は上記5. の評価規準の記号を示す

学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
<p>1. 単語テストとウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・Unit5 の単語テストを受ける</li> <li>・Crisscross Game - PC の画面を見ながら、ALT の質問に答える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を使う雰囲気を作る</li> <li>・PC の扱いが苦手な生徒に注意する</li> <li>・Slow Learner に配慮する</li> </ul>	<p>*評価 J *評価 C, F / PC</p>
<p>2. グループ編成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナンバーカードを用いて、クラスを4人ずつの10グループに分ける</li> <li>・各グループで Writer を1名と Reporter を1名選出する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速やかに行う</li> </ul>	<p>ナンバーカード</p>
<p>3. オーラルイントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JTL の School Uniform に関する話を聞き、School Uniform について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒が理解できる英語」を話すことに心がける</li> <li>・生徒とのインタラクションを大切にする</li> </ul>	<p>*評価 G PC、プロジェクター</p>
<p>4. Dictogloss</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・What do you think? / I agree (disagree) with ~ / I (don't) think ~ / What (How) about ~? / The point is ~ / I see what you mean. / In my opinion. などの表現を復習する</li> <li>・ALT が読む英文 (School Uniform について) を聞き、キーワードをメモしながら、その内容を理解する</li> <li>・聞いた後で、グループのメンバー全員で協力しながらその英文を OHP シートに再現する</li> <li>・完成した英文を全体で発表し、オリジナルの英文と比較する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクターで提示しながら簡潔で分かりやすい説明を行う</li> <li>・ノーマルに近いスピードで読む</li> <li>・必要なら2回繰り返す</li> <li>・School Uniform についての ALT の意見を理解させる</li> </ul>	<p>*評価 D, G PC、プロジェクター  OHP と OHP シート PC、プロジェクター</p>
<p>5. School Uniform について意見を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT の School Uniform についての意見 (Uniform には反対) に対してグループとしての賛成、反対の態度を決定する</li> <li>・それぞれの立場で、ALT の考えを支持するための、あるいは反対するための意見を考える (5~6文)</li> <li>・考えた意見を Writer が Word Pad で書き、ファイルを提出する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモ用紙を配付する</li> <li>・できるだけ知っている表現を使うように促す</li> </ul>	<p>*評価 A, B   PC</p>
<p>6. まとめと課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時にグループごとに 意見を発表することを 知る</li> </ul>		



## 9. 結果と考察

本年時の研究課題が決定してから、「学習活動における他の生徒との関わり合い」を常に意識しながら授業を進めてきた。

活動の形態に関しては、出来るだけ多くの生徒とコミュニケーションの機会が持てるようにということで、コミュニケーション活動の計画がある時間には、毎時間授業の始めに席替えを実施し、前回とは違うペアやグループを組めるように配慮した。時間的に少し心配もあったが、ナンバーカードを利用することで短時間でペアやグループ編成を行うことが出来た。毎回席替えを実施することで授業に活気が生まれ、あるペアやグループではやる気を見せなかった生徒が他のペアやグループだと全く違う側面を見せ、リーダーシップを発揮するような場面を頻繁に見るようになった。

活動内容に関しては、今まで Speaking の活動に偏りがちだったコミュニケーション活動を、Reading や Writing にも広げることが出来た。Reading 教材では、Reading Card (資料参照) を用いて、4人のグループで協力し合いながら内容把握を行う Group Reading に取り組ませた。Writing に関しては、Dictogloss (授業案参照) という、やはり4人のグループで協力し合いながら一つの物語を書き上げる Group Writing に取り組ませた。一人では何もしなかった生徒がグループでの役割を与えられることで、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。本年度はグループ内での役割として、Reporter と Writer という2つの役割しか設けなかったが、今後さらに多様な役割を設けて、英語の苦手な生徒でも自己効力感を感じることができるようなコミュニケーション活動を目指す必要があることを強く感じた。

CALL システムの活用に関しては、学習意欲を高めるために効果があることを確信することが出来た。特に Hot Potatoes を利用した自習教材については、「学習者が解答を見ずに、自分の答えが正解かそうでないかが分かる」という点が画期的であると感じている。答えを見てしまえば、生徒は試行錯誤して正解にたどり着くということができないが、正解を見ないでも答えが間違っているということだけが分かれば、学習者は試行錯誤を繰り返しながら正解にたどり着こうとする。学習活動においてはこの「試行錯誤」の過程が極めて重要であると考えられるが、このことは今までは、指導者が「ここ間違っているよ。」と指示してやることでしか実現することが出来なかったが、コンピュータの活用でこのことが可能になったのである。

インターネット上の任意のウェブサイトを授業に利用するという試みにも大きな可能性を見いだすことが出来た。今回利用した Quia Web (資料参照) は、テストの自動作成及び自動採点、成績管理という機能の他に、コンピュータを利用した「聞く」「読む」「書く」の3技能を統合し、ゲーム的要素を取り入れた様々な練習問題を作成することも出来る。従来の「プリント」ではない、新たなメディアとして限りない可能性を秘めていると言えよう。

評価活動に関しては課題が残った。多様なコミュニケーション活動を取り入れることにより、いわば無意識のうちに自己評価力を高めるという方法は間違っていないが、振り返りカードなどを用いて意識的に相互評価や自己評価に取り組ませることにより、自己評価力の育成を強化する活動が甚だ不十分であると言わざるをえない。どのような評価活動を、いつ、どのような頻度で行っていくかの研究が今後も必要である。

# 3年生授業資料

## ■ワークシート -Unit5 Reading for Communication (1)

UNIT 5 Video Game -Dialog ( P.55)

【新出語彙】 品詞と意味欄の読み取り

品詞	意味	品詞	意味
turn ~ off	消す、切る		
violent	暴力的、暴力的		
*care	気遣		

※このワークシートは新出の単語を覚えるためのワークシートです。  
【前回の練習】 前回の練習は前巻

turn off \_\_\_\_\_  
violent \_\_\_\_\_  
care \_\_\_\_\_

【授業メモ】 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

UNIT 5 Video Game -Dialog ( P.55)

【本文内容理解】

■ Mother: Mark! Stop playing that video game.

① stop + ~ing 「 \_\_\_\_\_ 」  
② stop + to ~ 「 \_\_\_\_\_ 」

■ Mark: Why? I just started.

③ 「何を始めたのか」とのことか。  
④ 「何を始めたのか」とのことか。

■ Mother: I don't care. Turn it off.

⑤ care 「 \_\_\_\_\_ 」  
⑥ 語訳は「気に、気にしないこと」  
つまり、ここの意味は「 \_\_\_\_\_ 」

■ It's not good for you.

⑦ 「それは、あなたにとって良くないね。」

■ Mark: I don't know what you mean.

⑧ (問答練習用文) 「僕は、あなたが \_\_\_\_\_ 」

■ Mother: It's too violent.

⑨ 「それは、 \_\_\_\_\_ 」

■ I don't want you to play it.

⑩ want + to + (U) 「 \_\_\_\_\_ 」  
⑪ この意味は、「僕は、 \_\_\_\_\_ 」

UNIT 5 Video Game -Dialog ( P.55)

【KEY SENTENCE】

**I don't know *what you mean*?**  
(私は、あなたが何を言っているのかわかりません。)

★ 関係詞文 I know ~や I don't know ~ などの疑問詞で始まる疑問文が読める時には、疑問詞より少し先の文の語彙が、肯定文の語彙になる。

● (例) I know - Where is your pen? - I know where you are it.  
I know - Where does he live? - I know where he lives.

★ 上の英文を丸読練習しましょう

\_\_\_\_\_

【基礎練習 1】 次の関係詞文を日本語に訳しなさい。

(1) I know where you are from. \_\_\_\_\_  
(2) I know where you went yesterday. \_\_\_\_\_  
(3) I don't know why you come here. \_\_\_\_\_

【基礎練習 2】 次の関係詞文で始まる疑問文を、I know ~ のついでで書きなさい。

(1) Who is this man? → I know \_\_\_\_\_  
(2) When is your birthday? → I know \_\_\_\_\_  
(3) When does he get up? → I know \_\_\_\_\_  
(4) When did you study English? → I know \_\_\_\_\_

【発展練習】 (発展) 日本語の意味に合うように、英文を完成せよ。

(1) I know \_\_\_\_\_ he \_\_\_\_\_ this question.  
(私は、誰かがその質問に答えるための方法を知っている。)

(2) Do you know \_\_\_\_\_ come back?  
(あなたは、本業がいつ帰ってくるのか知っていますか?)

(3) I know \_\_\_\_\_ last Sunday.  
(私は、本業が先週の日曜日に行きかけたのを知っています。)

(4) I don't know \_\_\_\_\_  
(私は、「忘れ物」をどこへ持ったのか知らない。)

★ 最終的な日本語に合うような場合は、語彙の意味を確かめなさい。【What's the best?】

UNIT 5 Video Game -Dialog ( P.55)

【基礎練習】 (発展)

(1) I know why he couldn't answer this question.  
(2) Do you know when Kumi is coming back?  
(3) I know where Tom went first Sunday.  
(4) I don't know who ate the cake.

【自由ノート】 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

## ■ Reading Card -Unit5 Reading for Communication (1)

Sheet1

★グループの他の3人のメンバーに次の質問文を読んであげてください。(絶対に英文を見せないこと!) 聞いた人はそれを自分のワークシートに書き取りなさい。全員の質問が書き取れたら、協力して答えを考えなさい。

質問: Is Mark's mother against the video game?

答え: \_\_\_\_\_

★他の3人のメンバーの質問を下に書きとりなさい。答えはいっしょに考えましょう。

①質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

②質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

③質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

Sheet2

★グループの他の3人のメンバーに次の質問文を読んであげてください。(絶対に英文を見せないこと!) 聞いた人はそれを自分のワークシートに書き取りなさい。全員の質問が書き取れたら、協力して答えを考えなさい。

質問: Does T.J. agree with Mark's mother?

答え: \_\_\_\_\_

★他の3人のメンバーの質問を下に書きとりなさい。答えはいっしょに考えましょう。

①質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

②質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

③質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

Sheet3

★グループの他の3人のメンバーに次の質問文を読んであげてください。(絶対に英文を見せないこと!) 聞いた人はそれを自分のワークシートに書き取りなさい。全員の質問が書き取れたら、協力して答えを考えなさい。

質問: How old is Mark?

答え: \_\_\_\_\_

★他の3人のメンバーの質問を下に書きとりなさい。答えはいっしょに考えましょう。

①質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

②質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

③質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

Sheet4

★グループの他の3人のメンバーに次の質問文を読んであげてください。(絶対に英文を見せないこと!) 聞いた人はそれを自分のワークシートに書き取りなさい。全員の質問が書き取れたら、協力して答えを考えなさい。

質問: In Kaori's opinion, what other things are filled with violence?

答え: \_\_\_\_\_

★他の3人のメンバーの質問を下に書きとりなさい。答えはいっしょに考えましょう。

①質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

②質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

③質問: \_\_\_\_\_

答え: \_\_\_\_\_

## ■インターネット・イントラネットを利用した評価活動と教材例

Quia Web (<http://www.quia.com/servlets/quia.web.QuiaWebManager>) で作成した単語テストと文法テスト

**Unit 5 単語テスト**  
日本語の意味に合う空欄に入れる適切な単語を選択しなさい。

1. Tom \_\_\_\_\_ the video game. (ビデオゲームを遊んでみた。) (10 points)
  - of
  - off
  - left
  - right
2. It's too \_\_\_\_\_. (それは面白くないです。) (10 points)
  - hard
  - mean
  - interesting
  - violent
3. Who can \_\_\_\_\_ think? (それがそれを理解できますか?) (10 points)
  - think
  - prove
  - mean
  - become
4. How about having age \_\_\_\_\_? (年齢制限を付けてもいいですか?) (10 points)
  - violence
  - old
  - opinion
  - limits
5. This cap is \_\_\_\_\_ with water. (この帽子は水で濡れます。) (10 points)
  - full
  - filled
  - touch
  - large
6. It is \_\_\_\_\_ all over the world. (それは世界中で売られています。) (10 points)
  - used
  - sold

**Unit 5 文法テスト(現在分詞、過去分詞の後置修飾と関係詞問文)**  
次の英文の空欄に、日本語の意味に合う正しい語を挿入しなさい。空欄に入る語が正しく。

1. The \_\_\_\_\_ in the park is Ken. (公園で遊んでいる男の子はケンです。)  
(10 points)
2. I have a \_\_\_\_\_ in Japan. (私は日本車の自動車を所有している。)  
(10 points)
3. Japanese is the language \_\_\_\_\_ Japan. (日本語は日本で話されている言語です。)  
(10 points)
4. Do you know the woman \_\_\_\_\_ over there? (あなた、おんなでその人を見ている女性を知っていますか?)  
(10 points)
5. The girl \_\_\_\_\_ a \_\_\_\_\_ is Hanako. (手紙を書いている女の子は花子です。)  
(10 points)
6. I don't know \_\_\_\_\_ mean. (私は、あなたの言っていることが何の意味もありません。)  
(10 points)
7. I know \_\_\_\_\_ you \_\_\_\_\_. (私はあなたがどこに住んでいるか知っています。)  
(10 points)
8. Please tell me \_\_\_\_\_ has in her bag. (彼女がその袋の中に何を持っているか、私に教えてください。)  
(10 points)
9. I know \_\_\_\_\_ to your house last night. (私は、あなたが私の家の鍵を盗ったのを知っています。)  
(10 points)
10. He doesn't know \_\_\_\_\_ in this box. (彼は、何が入っているのか知りません。)  
(10 points)

## Quia Web の生徒成績管理ページ

Instructor Zone  
Welcome, M.FUKUMOTO

Comments and Suggestions  
Brochures and Presentation Materials  
Quizzes FAQ

Classes Quizzes Activities Assignments Files Preferences

Results Help

class 3A Go or Create a new class

How do I set up a class roster?  
Printable Roster

Quiz Scores (switch to points)

Student (switch to ID)	Unit...003	Unit	UNIT...001	単語テスト...000
	90 %		95 %	100 %
	40 %	65 %	45 %	60 %
	90 %		95 %	90 %
	100 %	90 %	100 %	90 %
	90 %	90 %	50 %	90 %
	100 %	95 %	90 %	100 %
	80 %	90 %	95 %	90 %
	100 %	80 %	100 %	100 %
	30 %	30 %	45 %	0 %
	100 %	95 %	100 %	100 %
	80 %		85 %	90 %
	60 %	75 %	95 %	100 %
	100 %	100 %	100 %	100 %
	100 %	95 %	95 %	100 %
	90 %	95 %	95 %	100 %
	100 %	95 %	100 %	90 %
		70 %		
		30 %	50 %	0 %

生徒名は伏せてあります

## HotPotatoes で作成した文法教材

HOME DICTATION GRAMMAR CROSSWORD EASY READING ENGLISH SONG

HOME

《1年生基本》

- ♪ be動詞 (is, am, are)
- ♪ 一般動詞 (現在形) と命令文
- ♪ What do you ~? の文
- ♪ 複数形
- ♪ 主語が I, you 以外の単数形の時の文
- ♪ いろいろな疑問詞
- ♪ Whose ~?
- ♪ 人称代名詞 (1)
- ♪ 人称代名詞 (2)
- ♪ 現在進行形
- ♪ can を使った文
- ♪ 過去形

《1年生発展》

- ♪ is, am, are の区別
- ♪ have と has の使い分け
- ♪ be動詞、一般動詞の文の疑問文への書き換え
- ♪ be動詞、一般動詞の文の否定文への書き換え
- ♪ we, you, they の使い分け

### 間接疑問文

#### 3年生文法練習問題

指示に従って問題に答えましょう。全部答えられたらCHECKボタンをクリックして答を確認しましょう。どうしても分からないときにはHINTボタンを使うこともできます。(ただし得点は減点されますよ！)

\* 日本語の意味に合うように、英文の空所に適語を入れなさい。

(1) I don't know    happy.  
(私は、なぜ彼が幸せなのか知らない。)

(2) I don't know    you.  
(私は、いつ彼があなたに会ったのかわからない。)

(3) Do you know    ?  
(あなたは、彼女がどこに住んでいるか知っていますか?)

(4) I know    in your pocket.  
(私は、あなたがポケットの中に何を持っているか知っています。)

## HotPotatoes で作成した英語の歌の聞き取り教材

HOME DICTATION GRAMMAR CROSSWORD EASY READING ENGLISH SONG

HOME

[The Beatles]

- ♪ Help
- ♪ Hey Jude
- ♪ Let it Be
- ♪ Love Me Do
- ♪ Ticket To Ride
- ♪ Yesterday
- ♪ A Hard Day's Night
- ♪ Yellow Submarine


[John Lennon]

- ♪ Imagine
- ♪ Happy Xmas (War is Over)

[Carpenters]

- ♪ Sing
- ♪ Top of the World
- ♪ Yesterday Once More
- ♪ I Need to Be in Love
- ♪ I'll Say Goodbye to Love
- ♪ Superstar
- ♪ Please Mr. Postman
- ♪ This Masquerade
- ♪ Ticket to Ride

### Only Yesterday by Carpenters



正しい歌詞を選びましょう

NO.1 After long enough of being alone

NO.2

NO.3 In my own time nobody knew

NO.4 The pain I was goin' through

NO.5 And waitin' was all my heart could do

NO.6 Hope was all I had until you came

NO.7

NO.8 You were the dawn breaking the night

NO.9

NO.10 Filling the world surrounding me

HotPotatoes で作成したディクテーション教材

HOME DICTATION GRAMMAR CROSSWORD EASY READING ENGLISH SONG

HOME

<1年生>

<2年生>

<3年生>

My Country-1

My Country-2

Unit1 Starting Out

Unit1 Dialog

Unit1 Reading 1

Unit1 Reading 2

Listening Plus 1

まとめ 1

Let's Chat 1

Multi Plus 1

Unit2 Starting Out

Unit2 Dialog

Unit2 Reading 1

Unit2 Reading 2

Listening Plus 2

Writing Plus 1

Speaking Plus 1

Multi Plus 2

Unit3 Starting Out

Unit 4 - Reading for Communication 2

3年生聞き取り練習

英文を聞き、空所に正しい語を書き入れましょう。全部答えられたらCHECKボタンをクリックして答を確認しましょう。どうしても分からないときにはHINTボタンを使うこともできます。(ただし得点は減点されますよ！)

全体通し

Japanese friend   different

(私の日本人の友達は、違った問題を経験しました。)

day my family   to an elegant American

(ある日、私の家族は、彼をアメリカの上品なレストランへ連れて行きました。)

He  a  and became .

(彼は、たくさん食べて、のどが渇きました。)

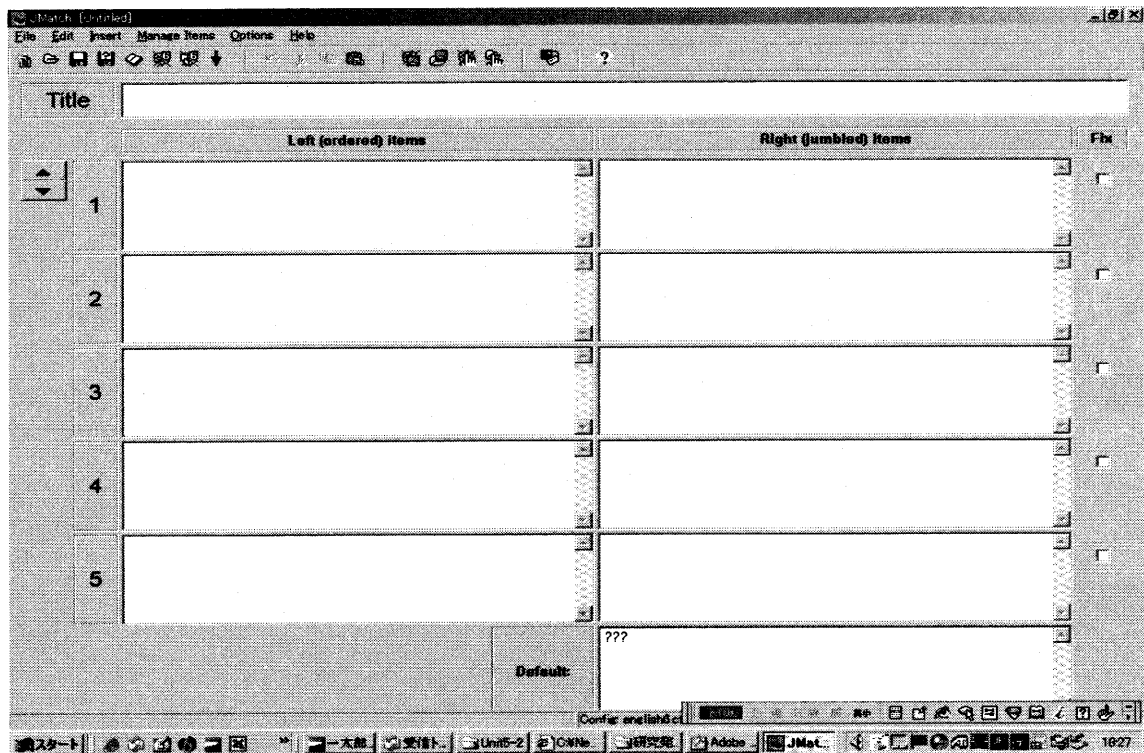
He  some water,  he . "I'm !"

I'm !"

パワーポイントを利用したペアリーディング用教材

Mother	Mark
● Mark!	● Why?
<input type="text"/> <input type="text"/> that video game.	I just <input type="text"/> .
● I don't <input type="text"/> <input type="text"/> it <input type="text"/> . It's <input type="text"/> good <input type="text"/> you.	● I don't know <input type="text"/> you <input type="text"/> .
● It's <input type="text"/> violent. I don't <input type="text"/> you <input type="text"/> play it.	

\* カナダ Victoria University 提供 (<http://web.uvic.ca/hrd/halfbaked/index.htm>)



## ■ 振り返りカード例

CLASS ( ) NO. ( ) NAME ( ) DATE \_\_\_\_月\_\_日\_\_曜

### 英語の学習振り返りカード (Unit5)

\* 自己評価の基準

A…十分ががんばれた      B…まあまあがんばれた

振り返り (自己評価) の観点	自己評価	ひとこと
・先生の話すことやCDにしっかりと耳をかたむけた		
・グループやペアで積極的に英語で話そうとした		
・音読練習ではしっかりと声を出して読むことができた		
・制服についての話し合いでは積極的に意見を出すことができた		
・ドリルやワークシートにまじめに取り組むことができた		

\* 上記の項目以外で、頑張ったと思うことを書いてください\*

## VI 取り組みの成果と課題

「表現する力」に関わって、より具体的な到達目標を設定し、それを実現するための多様な表現活動の工夫と開発に取り組んできたが、いくつかの成果を見ることが出来た。

まず、活動形態について、コミュニケーション活動を行う際に、毎回出来るだけ違う生徒とペアやグループを作らせたことは、学習意欲を高めるために有効であったと思われる。実際、あるグループではさほど意欲を見せなかった生徒が、違うグループではがぜんリーダーシップを発揮し、意欲的に学習活動に取り組む姿を頻繁に見ることが出来た。

活動内容では、「話す」活動に偏りがちだったペアワークやグループワークを、「読む」「書く」活動においても実施できる可能性を見いだすことが出来た。グループで協力し合いながら一つの話を書き上げる活動である Dictogloss や、同じ読み物をグループで協力し合いながら読むことにより内容理解を図る Group Reading（ともに3年生で実施）等は、より多様なコミュニケーション活動を行っていくために極めて有効な方法であると感じた。

1年生では、英語科と音楽科の合科的な授業にも試験的に取り組んだが、学校という制限された場において、よりオーセンティックな題材が生徒たちの学習意欲を飛躍的に高めることを再確認することが出来た。今後も留学生、外国人のゲスト、実物教材、インターネット等を活用した「本物」のコミュニケーションの場を積極的に導入していきたいと考えている。

評価については、まず附属中学校として設定した評価基準を見直す必要性を感じている。「満足できる」状態と「おおむね満足できる」状態のカットングポイントをどこにおくべきか、全教職員で論議を重ねる必要がある。

コミュニケーション活動を終えた後に、評価カードを用いた相互評価にも取り組ませたが、毎回同じような評価を繰り返すことに課題が残った。生徒たちが「評価慣れ」を起し、評価が形式だけに終わってしまうことが多かったのである。評価を実施する頻度やタイミングをどうすべきかを今後も引き続き研究していく必要がある。

評価が形成的評価にとどまるものなのか、あるいは総括的評価に結びついていくものなのかの意識的な区別を行うことがたいへん重要であるということを改めて感じている。ここでは、総括的評価＝「ある一定の学習活動の後で学習者の学習の達成状況を知ることが主たる目的として、指導者が全生徒同一の規準で、同一時間内に、出来るだけ正確に測定する評価」、形成的評価＝「学習者の学習意欲を高めることを主たる目的として、指導者あるいは学習者が自分自身で、あるいは相互に行う評価。評価規準の同一性や評価の客観性、正確性は問題としない。」と定義することとする。「評価は客観的で誰が見ても妥当なものでなければならない」ということは総括的評価についてはそうであっても、形成的評価に関してはそうではないだろう。形成的評価に関しては、子どもの良い面を積極的に評価するという姿勢、言い換えれば、いわゆる指導者の「欲目」が大事なのであろうと思われる。形成的評価によって子どもたちに自信と自己効力感を与え、総括的評価によって自分を客観的に見ることが出来る自己評価力を養っていくという両面からのアプローチを今後も大切にしていきたいと思う。